

茨城県 大洗町視察研修

(2011年
6月23日～
24日)

東日本大震災による津波被害とその後の復興状況、大洗町議会議員の震災時における体制について研修を行いました。

なぜ津波で1人の犠牲者も出なかったのか？

東日本大震災で港のすぐ沖に巨大な大渦ができ、5m弱の津波が襲い掛った町です。

地震発生直後、役場からいち早く防災無線・個別防災受信機によってサイレンを流し避難勧告を開始しました。消防団等もすぐに出動し海岸に向かい避難勧告を呼びかけました。また気象庁が茨城県に津波警報を発令すると直ぐ勧告から避難指示に切り替え、徐々に放送する言葉も強く



津波発生の大渦 (提供: 大洗町)

なり「早く逃げなさい」「大至急高台に避難しなさい」と命令口調に変わっていったそうです。実は、ここ大洗町は東海村の近隣に位置し原子力関連施設を抱えています。1999年に起きた東海村JCOの臨界事故では屋内退避命令が出されました。

この事故の教訓により町内45ヶ所に張り巡らされたスピーカーや個別防災受信機などのインフラ整備が進み、本来原発事故を想定して築かれた防災体制が津波対応にも役立つたようです。

真鶴町も海に面した町であり、対岸の火事ではありません。日頃から各自が「防災意識」を高め災害に備えましょう。

〈二見和幸委員長〉

3. 11震災を乗り越えて マスコミも注目 「かあちゃん」の店

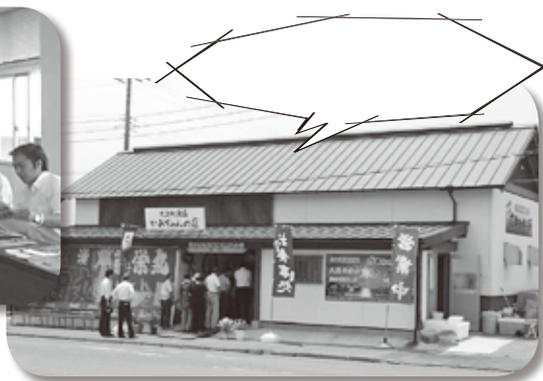
大洗町の主な産業は、観光、沿岸漁業、商業港フェリー、原子力研究所があります。

観光の目玉としてマスコミでも注目されていた漁協経営の「かあちゃん」の店は、津波で被災しましたが、いち早く復興を遂げました。

漁師料理で煮魚・刺身定食の人气が定着していて、多くの来客があり、平日は250人、土日は400人が来店しています。



研修風景



取りまとめている漁協関係者は、「他の店は地魚を使用しないで、魚屋から仕入れた魚介類を使用しているから単価が上がる。地魚中心のメニューを組めない事が客離れを起こしている」と分析しているようです。

〈青木 巖委員長〉

経済文教常任委員会・総務民政常任委員会の委員長が代表で報告します。

全議員の視察研修報告書を公開

日時:9月1日(木)～9月30日(金)の1カ月間
場所:役場3階

